

## コロナが過ぎて、未来は？

吉富町 阿部正紀

猖獗をきわめた新型コロナが漸く下火になって来ました。十一月四日のコロナ感染者数、全国で一五八八人、福岡県では九人。感染ピーク時の八月二十日には全国で二万千人、福岡県で八月十八日に一、二五〇人も感染者が出たのに、もう殆ど無くなったかと思われる数字です。



ところが、安心するのはまだ早い、油断するとまた感染増加するものだそうです。

寺報は、いつまでもコロナに気を奪われている訳に行かないだろうから、少し話題を変えてみよう。

コロナが終わったとしてその後はどうなるだろうか。未来を予測することは誰も出来ないことです。我々も出来ません。昔から言うでしょう、「神のみぞ知る」と。神様・仏様は人間の未来のことは全て判っていますが、人間は未来のことがどうなっているかは判らないものです。

しかしながら、未来がこうあって欲しいと希うことは誰にでも出来るのです。

どんな未来を希うのか。まず、自分の健康かな、次いで自分の家庭・家族の健康か、更に地域・社会の人々が元気で、楽しく過ごしているかどうか、かな？

俺は、健康などはどうでもいい。俺が欲しいのはお金である、お金が無ければ何も出来ないではないか、という人もいるでしょう。更に、俺はお金も健康もどうだっていい、ただボーとしていて何ものにも拘束されないのが一番という人もいます。

こんな具合で、人は未来・将来のことについては誰からも拘束されることなく、自由に想像してよいのです。これがあるから人生は楽しいと言えるのかもしれない。



## 紘ちゃんの独り言

### 米価の下落に思う

添田町 尾形紘光

天は蒼々、野は茫茫（秋の空は青々とし、収穫の終わった大地は広々としている）。今年の稲の収穫も終わり何かとほっとしている昨今だが、のんびりとはしてられない米価の状況である。

田川農協の3年産の概算価格が、昨年に比べて千円以上のダウンとなっている。米価は民間の在庫量180万トンを目安として、増えると価格が下がり、減ると価格が上がる



と言われている。2年産米の在庫量が220万トンを越えているそうで、来年はそれ以上に増えると予想されている。

原因はコロナ禍による外食産業の落ち込みと人口減少、高齢化などで毎年8万トンから10万トンの需要減になつており大幅な在庫増となっている。特に東北や北海道の大生産地での価格の落ち込みが激しいようだ。

私の住む添田町では、近年の温暖化に伴い登熟期の高温障害により、白濁米等の増加が顕著である。品質で一等米が全体の2%しかなく98%が2等米で、これも大きな収入減となっている。

今、半農半X（小さな農業で必要な分の食を得て必要な物だけを満たす小さな暮らし）が言われていますが、農地の大半を維持管理しているのは、営農組織や専業農家である。将来に渡って農業、農地を維持していくためには米の需給と価格の安定が必要である。今回の衆議院選挙では米政策についてどの党もあまり語られてはいなかったが与党には早急な検証と対策を期待したいところだ。



## 秋彼岸法要のレポート

### レポ

日時 令和3年10月2（土）、3（日）日

午後1時半より

講師 住職 瓜生 崇先生

### 法話の要旨

【初日】

人は死んでゆくのにどうして一生懸命に生きるのか。



父は大手企業の重役だったが、最後につまらない人生だったと言つて死んでいった。

【二日目】

「観無量寿経」で、韋提希夫人は子どもから牢獄に閉じ込められ、憂いのない世界を求める。お釈迦様に愚痴を言いつのり、人格が破綻して泣き崩れる姿が実は礼拝していることだ。美しく表面を飾るのが礼拝ではない



### 住職の感想

今回も多くの方がお参りして下さいました。この講師はお寺関係の方が多く聴聞に来られます。仏法は間隔を開けずに聴聞するのが本来ですが、法座が年4回の機会しかないというのが、念信寺の課題です。